

令和7年度 ワンヘルスマスター育成プログラム 開始



令和5年度から福岡県が実施している「ワンヘルスマスター育成プログラム」が今年度も開始されました！

福岡県では、令和5年度から 「ワンヘルスマスター育成プログラム」を実施！

※今年度の募集は終了しました。



📖 このプログラムは全8回 📖

人と動物の病気や暮らしのつながりについて
学びながら、自然体験や施設の見学も楽しめます！

全ての回を終えてマスターに認定されると、
地域での学習会などで、講師として活動していきます。



プログラム（第3回）

生物多様性から気候変動まで「ワンヘルス」を学ぶ
人・動物・環境がひとつにつながっている「ワンヘルス」
の視点から、さまざまな講義や体験学習が行われました。

— 講義 —

生物多様性と環境保護

最初の講義では、生きものの多様性が私たちの暮らしや健康に直結していることが紹介されました。
たとえばシカが増えすぎると森の植物が食べ尽くされ、豪雨災害のリスクが高まります。

さらに外来種アライグマによる小動物の過剰な捕食は、生態系のバランスを崩す要因になります。
こうした自然界の変化が、人間社会にまで影響を及ぼすことが強調されました。

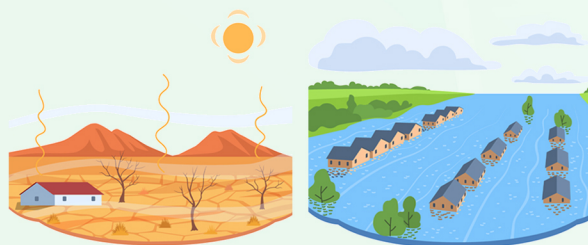


— 講義 —

気候変動とワンヘルス

続く講義では、地球温暖化が人や動物の健康に与える影響に注目されました。
熱中症患者の増加や、蚊が媒介する感染症の拡大などが、身近な課題として取り上げられました。

また、「緩和」と「適応」という2つのキーワードを軸に、災害への備えや日々のエコな取り組みの重要性が強調されました。



2つの気候変動対策

緩和とは？

原因を少なく

気候変動による私たちの暮らしや自然への悪影響を防ぐためには、温室効果ガスを減らして、できるだけ気候変動を小さくすること（＝緩和）が大切です。



エコカー



再生可能エネルギーの活用



節電・省エネ



森林を増やす

適応とは？

影響に備える

たとえ温室効果ガスをできる限り減らしても、気候変動の影響を完全に避けることはできません。
だからこそ、その被害を少なくし、私たちがより安心して暮らせるように工夫していくこと（＝適応）が大切です。



災害に備える



熱中症予防



感染予防のため
虫刺されに注意



高温に強い農作物

— 体験 —

気候変動適応への道 すぐろくゲーム

参加者でサイコロを振り、気候変動による出来事や対策を模擬的に体験できるゲームを楽しみました。
マスは「豪雨災害でマイナスポイント」や「適応カードで災害を乗り越える」など、工夫されたものとなっており、遊びながら学べます。
ゲームを通じて「気候変動は遠い話ではなく、日々の暮らしとつながっている」ことを自然に理解することができました。



— 実習 — 大気環境の観測

福岡県内55か所で行われている大気の監視について学んだあと、実際に測定器を使って二酸化炭素濃度を測定しました。密閉した室内では2000ppm近い数値が出ており、安全基準とされる1000ppm以下を大きく超えました。普段は意識しない「空気の質」が、健康と直結していることを体感できる実習でした。



— 実習 — 水質の測定

川の水をバケツで採取し、簡易な水質検査を行いました。水の汚れなどを調べることで、水質が健康や生態系にどのように関わっているかを学びました。「一度汚れた水は巡り巡って私たちの飲み水や食に影響する」そのような当たり前でありながら大切な事実を、改めて深く実感することができました。



気候変動は、地球全体のSOS。

人・動物・環境がひとつにつながっているからこそ、
私たちの小さな気づきと行動が未来を守る力になる。

